



# 受賞作品集

## フォト俳句コンテスト

俳句のまちあらかわ

令和六年度

発行 令和七年三月  
発行者 荒川区

荒川区荒川2-2-13  
TEL 03-3802-4689

主催／荒川区  
後援／俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会

～荒川区は俳句のユネスコ無形文化遺産登録を目指しています～

登録(06)0096号



## 実施概要

松尾芭蕉や正岡子規などが多くの俳句を詠み、区内各地に句碑が建立されている俳句ゆかりの地である荒川区は、「俳句のまちあらかわ」として、俳句文化の裾野を広げる活動に取り組んでいます。

今回、この取り組みの環として、「俳句」と「写真」を組み合わせた「俳句のまちあらかわフォト俳句コンテスト」を実施し、区内外から合わせて958句の素晴らしい作品が集まりました。

### 【募集期間】

令和6年10月1日(火)～令和7年1月10日(金)

### 【部門】

一般の部、こどもの部(小学生以下)

※荒川区の風景

課題写真の部

### 【各賞】

一般の部、こどもの部

それぞれ特選3句・入選6句・佳作9句

課題写真の部 入選20句

## 選者



対馬 康子氏

俳人  
現代俳句協会副会長  
荒川区国際交流協会理事長



堀田 季何氏

俳人  
現代俳句協会常務理事  
「楽園」主宰



佐々木 忠利氏

俳人  
荒川区俳句連盟会長  
荒川区文化総合講座俳句講師

## 一般の部 受賞作品

実施概要・選者紹介……………1

一般の部

特選(三作品)……………3

入選(六作品)……………6

佳作(九作品)……………9

こどもの部

特選(三作品)……………13

入選(六作品)……………16

佳作(九作品)……………19

課題写真の部

入選(二十作品)……………22

荒川区俳句のまち宣言……………26



# 春を待つ散歩寄り道あそびましょ

櫻井祥香



選 評

女の子の動物の帽子がこちらを向いているのが絶妙の一枚です。子どもたちの「あそびましょ」の声が聞こえるよう。「寄り道」という言葉に、ゆったりとした明るい日常があります。きっと楽しい春が訪れるでしょう。

# 弾痕から覗く本堂蟬時雨

森川雅美



選 評

上野戦争での弾痕が山門に残る。作者は、この弾痕を通じた独自のアングルから密かな美を見出した。ロダンが「美はあらゆるところにある」と言うが、これは戦争の残酷と歴史の蓄積を感じさせる美だ。蟬時雨があわれ。



# 鉄塔の幾何学模様冬の空



高仲 絹

選 評

凍りついたように寒々とした冬空を背景とした鉄塔の幾何学的な形状を描写している。冷たく澄んだ冬空と鉄塔の直線や角度が対比され、静寂と力強さが感じられる。視覚的な美しさと冷たい季節の情景が伝わってくる。

# 足音の遠ざかりゆく落葉道

大島 章 吾



# 惜春や旅立つうしろ影ふたつ

河野 三男







乗り継ぎはチンチン電車神の旅

茂木尚美

玉のやうな冬日と溜る時間かな

石田道彦



身じろがぬことも勇気か空つ風

加那屋こあ



一瓢も一茶も愛でる三五の月

斉藤寿美子



冬うららわたし一人でのぼれるよ

浅野尚子



群青の海白鳥の落し物

小湊こぎく

新豆腐鍋を持たされ尾久銀座

小田 毬藻



秋暑しライナー風と滑り込む

平子甲奈



団扇繪は団扇美人や吾も持つ

玉木たまね

親不知抜いて駅には薔薇咲いて

山本半片





漆黒の提灯文字や冬ぬくし

田中礼子



秋天に清掃船やひた走る

せつ子



本殿のしんと鎮まり青葉木苑

牧やすこ



こどもの部 受賞作品



## 寒波から雲のうしろににげる月

荒川区立第七峡田小学校四年 飯塚俐斗



選評

ふと見上げた夜空のお月様も寒い寒いと、暖かそうな雲の後ろに逃げているとはユーモアがある捉え方です。月の心になって考えたのですね。静かに凍てつく夜の下町を照らす月の動きが生き生きと出ています。

## 冬の空遠くの雲が海みたい

荒川区立第七峡田小学校三年 遠藤悠人



選評

空が海、というのは類想だが、遠い雲が海、というのは非凡だ。冬の空ならではの深い青と空気感の果ての地平線上に、幾筋の雲が横一直線にあり、作者、そこに波打ち際を幻視したのだ。もう一つの海だと思える説得力。



# お月見や月と私の見つめ合い

荒川区立第六瑞光小学校四年 高山由羽希



選 評

月見の夜に月と自分が見つめ合っている様子を描写している。月の美しさと、その静かな時間を楽しむ気持ちが感じられる。シンプルだが、可愛い表現が見事である。

# 黄葉の木のうろ住まういのちの子

荒川区立第四峡田小学校三年 吉田茉由



# 冬麗町屋出発どこへでも

荒川区立第七峡田小学校四年 アイ







はじめてをたくさんくれた尾久の原

荒川区立第七峡田小学校三年 磯村章太



すみだ川この美しい町屋だけ

荒川区立第七峡田小学校三年 長井龍旦



十字路の白光の灯寒々と

荒川区立第七峡田小学校四年 岸栞那



右左みこしをふってやくばらい

荒川区立第七峡田小学校三年 高野優士



サッカーでメッシみたいにうまくなる!!

荒川区立第七峡田小学校三年  
須賀由翔



ゆうゆうと正月のたこ青空に

荒川区立第七峡田小学校三年  
花房怜佳

川の水ゆっくり流れるお正月

荒川区立第七峡田小学校三年  
喜瀬梨々美

地下鉄のホームでジュース飲む新年

荒川区立第七峡田小学校四年  
芝野孝志朗



尾久の原初日の出ヨガ六時起き

荒川区立第七峡田小学校三年  
彩絵

むしたちが春をまつてるおぐのはら

荒川区立第七峡田小学校三年  
荒原有吾



初詣お参りよりも鯉見たい

荒川区立瑞光小学校五年  
中村好汰



公園の遊び道具も寒そうだ

荒川区立第七峡田小学校四年  
木下結翔

見わたすと魚飛び出すすみだ川

荒川区立第七峡田小学校四年  
Y・K

## 課題写真の部

### 松尾芭蕉像

元禄2年(1689年)、松尾芭蕉は千住から奥州へと旅立ちました。「奥の細道矢立初めの地」のシンボルとして、南千住西口駅前広場に、松尾芭蕉像を設置しています。



### 受賞作品

しゃがむ子の膝の高さに草の花

亀田かつおぶし

芭蕉像きのふの時雨乾きけり

三田忠彦

翁仰ぐ虚空の果ての桜かな

紫水

俳人は行く春を追ふ雲を追ふ

ひでやん

芭蕉像のふくらはぎから冬に入る

秋野茜



## あらかわ遊園

都内唯一の公営遊園地である「あらかわ遊園」には、ウサギやヒツジとのふれあい体験が楽しめるどろぼう広場があります。



### 受賞作品

山羊の子のしきりに春を噛みたがる

二重格子

未来とは過去のでつぺん日脚伸ぶ

玉木たまね

遠足のけふはクラスの一員に

村山恭子

もぐもぐは平和のしるし春惜しむ

山崎すいか

春は方舟ひらひらと山羊睡りゆく

ぐ

## 下御隠殿橋 (トレンミュージアム)

JR日暮里駅北改札口を出たところにある「下御隠殿橋」には、トレンミュージアムと呼ばれるバルコニーが設置され、様々な電車が行き交う景色を楽しむことができます。



### 受賞作品

雷雲を載せて貨物の鉄軌む

平山暁生

行き交うは電車よ子らよ北風よ

田中正博

展望の列車雪女の手形

千振

黙想へ東風やトレンミュージアム

村山恭子

おつかれと鉄路暖め初日影

山本半片



## 荒川区俳句のまち宣言

### 「行春や鳥啼魚の目は泪」

元禄2年3月 この句を矢立初めの句として  
松尾芭蕉は その生涯をかけ「奥の細道」へと旅立ちました  
芭蕉が渡った千住大橋は 江戸と東北の地を結び  
私たちを 俳句の世界へと いざなう大橋として  
昔も いまも これからも 隅田川に架かります

私たちの暮らすまちには 人々が行き交い  
芭蕉の想いと 四季折々の美しさに導かれ  
子規が 一茶が 山頭火が この地で俳句を詠みました

「五・七・五」17文字の無限に広がる世界の中で  
私たちは 思いを伝える力を持ちます  
新しいものを創りだす力を持ちます  
世界中の人たちと心を結ぶ力を持ちます

荒川区は  
俳句の魅力を次代につなぐ架け橋として  
子どもから大人まで 俳句文化のすそ野をひろげ  
豊かな俳句の心を 未来に伝えることを誓い  
「俳句のまち あらかわ」を宣言します

平成27年3月14日 荒川区

起草委員会委員長 対馬 康子  
委員 金子 兜太  
小池 寛治  
佐々木 忠利  
銭谷 眞美  
西村 我尼吾



隅田川は、荒川区の北東部を迂回して流れており、水辺は地域の人々の憩いの場になっています。また、隅田川には、松尾芭蕉が渡った千住大橋が架かっています。

## 隅田川

### 受賞作品

麗かや童話で歌う隅田川

野中泰風

未来へとつなぐ花火や隅田川

斉藤寿美子

俳聖の面影たどる春の川

岡崎みのる

冬の朝我らが誇る隅田川

荒川区立峡田小学校四年 吉井海翔

川を曲げ夏の大蛇海を飲む

晩鳥